



**シラバス参照**

タイトル「**2017年度 教養科目シラバス**」、フォルダ「**2017年度 教養科目シラバスー「わかやま」学**」  
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	わかやまを学ぶ		
担当教員	王 妙発 長廣 利崇 吉村 旭輝 海津 一朗 古賀 庸憲 此松 昌彦 大橋 直義 東 悦子 加藤 久美		
対象学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	金 4	単位区分	
授業形態	講義	単位数	2
準備事項			
備考	全学部・全学年 人数制限有（200名）学部開放授業登録者は別枠受講可		
科目名（英語表記）	Lectures on Wakayama		
授業の概要・ねらい	「わかやま」の特性を理解するために、「わかやま」がもつさまざまな側面について、「わかやま」を研究フィールドとする専門家の目を通して学ぶ。ここでは、新たな「わかやま」の姿が具体的に明らかにされ、学生の「わかやま」を深く理解する契機となるであろう。「わかやま」をよく知ることで、「わかやま」を発信できるようにする。将来「わかやま」などをフィールドとする地域研究を進める上での一助となるであろう。		
授業計画	おおむね、以下のような内容を予定しているが、講師の都合により、日程が前後したり、急遽変更することがあるかもしれません。ご承知置きください。		
	回	内容	
	1	ガイダンス(4月14日)	
	2	和歌山の干潟に見られる希少で豊かな生き物と、その興味深い生態（4月21日、古賀庸憲）	
	3	和歌祭とわかやまの祭礼の特色（4月28日、吉村旭輝）	
	4	多様性のあるわかやまの地形・地質（5月12日、此松昌彦）	
	5	紀伊半島および和歌山の生き物たち（5月19日、高須英樹）	
	6	和歌山から世界へー海を渡った和歌山県人ー（5月26日、東悦子）	
	7	和歌山の環境精神文化（6月2日、加藤久美）	
	8	わかやまの説話・物語（6月9日、大橋直義）	
	9	わかやまの反逆者たちー悪党・海賊・倭寇ー（6月16日、海津一朗）	
	10	わかやまの城下町・参勤交代（6月23日、藤本清二郎）	
	11	和歌山の風土と産業（6月30日、藤田和史）	
	12	和歌山の徐福伝説（7月7日、王 妙発）	
	13	わかやまの家屋と建築（7月14日、平田隆行）	
	14	和歌山の鉱山の歴史と観光資源化の可能性（7月21日、長廣利崇）	
15	まとめ、アンケート（7月28日）		
到達目標	「わかやま」についての新たな知見を得て、「わかやま」を深く理解する契機とし、「わかやまの」情報発信者となる。		
成績評価の方法	成績評価は、積極的な授業参加（60%）、および授業内小テストもしくはレポート（40%）によって行う。小テストかレポートは担当者によって異なるので、各回のアナウンスをよく聞くようにしてほしい。		

教科書	東 悦子・藤田和史編 2017. 「わかやまを学ぶ」 清文堂出版. (3月発売予定)
参考書・参考文献	授業中に適宜紹介する。第1回のガイダンス講義では、一般的な参考文献等を提示する。
履修上の注意・メッセージ	講義は、毎回「わかやま」を対象とし、さまざまな専門性をもつ講師によって順次行われる。1回完結の講義で、できるだけ異なる分野の講師の講義を欠席することなく、数多く受講し、積極的な参加を求める。講師の都合により、多少講義の順序を変更することがある。 第1回目の講義（4月10日）に、詳しい各回の講義内容と担当者の予定について説明する。
履修する上で必要な事項	毎回講師が異なり、そのたびに小テストないしはレポートを提出してもらうので、積極的な授業への参加が求められる。レポートについては翌週に提出してもらう。
受講を推奨する関連科目	「わかやま学」に関する授業、地域協働セミナーなど。
授業時間外学習についての指示	本授業の授業計画に沿って、準備学習と復習を行ってください。さらに、各回の講師から授業中に提示される課題にしたがってレポート（2回以上）を提出することになりますので、自主的学習を進めてください。
その他連絡事項	

